



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第23号

2017年 4月17日

永寿会は本年度も職員研修に力を入れていきます。超高齢化社会が一層進む中、介護人材は更に確保・充実されなければなりません。同時に青壮年労働者の割合は縮小の一途で社会に貢献していただくためには、養育施設の整備も問われます。

こうした中、社会福祉法人としての役割と責任はより厳しく重要になるのだろうと思います。そしてこのような背景や社会状況を受けて粒粒辛苦を覚悟する毎日ですが、先日ある新聞にふと窓を開けられたような記事がありました。

それは朝日新聞の「朝日求人欄」右上の色々な分野の著名人が書き下ろしている文章です。4月16日付では、NHKのディレクターから映画監督となった大友啓史氏が「自分にケンカを売ろう」と題し、タイトルに「己のために履歴書を作る」という文章がありました。その中に私をぐっと引き付ける表現がありました。紹介すると「振り返って、僕が今日までやってこられたのは、雑多な仕事を積み重ねてきたからだとも言えます。基本的礼儀などを含めて「石の上にも三年、職人技なら10年はかかると思う。それを若い人へははっきりと伝えたい。退屈なルーチンワークでも、そのインプットがなければアウトプットの力はない。」とありました。そうです！いっぱい引き出しが無ければ、又素材が無ければいい表現や能力は発揮出来ず、継続しません。若い時に試練を潜り、困難にぶつかりながら知識や技能、経験した知恵を積み重ね、その後成長していくのです。

私はよくテレビ東京の「和風総本家」を見ています。ちょっと変わった司会のアナウサーと女優の萬田久子さんや東貴博さんが出演する番組です。特に最近は独特な技術を持つ職人さんを取り上げ、その製品の使用者と絡めて特色を出しています。外国での使用の実情や評価も紹介していますが、やはりその職業技術は10年～30年の修業や試行錯誤から生み出された作品や製品でした。技術的価値は一朝一夕では成し遂げられないものです。語彙力も同様に思索や読書の中で培われるもので、多く深まれば表現や文章が豊かになり、会話も変化に富みます。また、動植物や昆虫なども名称を理解しているかどうかで慈しみ方が違い、眼差しが豊かになり、逆に言えば、知らなければ「その他同様」で区別がつかず、視野の中に親しみがわきません。学びは一生続くのだとつくづく思います。この文をお読みになる皆さんはどうでしょうか？

以 上